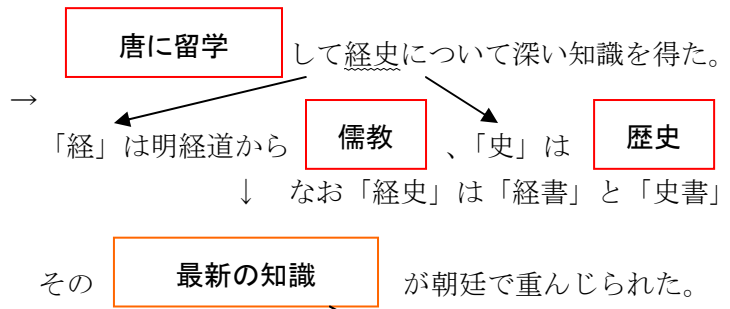


資料文の内容をブロックごとに整理する。

717 年に遣唐使に従い留学、よく経史を学び、「日本の留学生で唐で名をなした者は真備と阿倍仲麻呂の二人のみである」とまで称された。735 年に、多くの書物などを携えて同期の留学僧玄昉らとともに帰朝、その最新の知識は朝廷で重んじられた。



のちの孝謙天皇の皇太子時代の教師となったのもこの頃である。→ **孝謙天皇** の皇太子時代からの教師

として **個人的信任** を得た。

740 年には、重用される玄昉や真備の排除をめざして藤原広嗣が大宰府で反乱を起こしたが、鎮定された。やがて藤原仲麻呂が権力を持つと左遷され、さらに 751 年には入唐副使となって再び唐に渡った。

→ **中央政界で何度も追放の危機や左遷にあっている。にもかかわらず地方豪族出身という低い出自で昇進できたのはなぜか？**

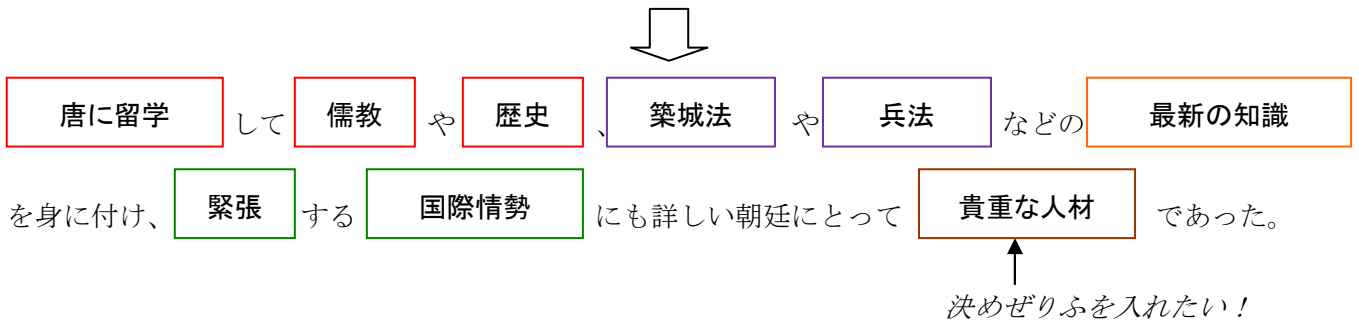
帰国後は大宰府の次官となり国際的緊張下に → **緊張** する **国際情勢** に詳しい。

筑前国の **怡土城** を造った。 → **築城法** や **兵法** に詳しい。

のちに京にもどった真備は、764 年の藤原仲麻呂の乱では、兵法の知識をいかして

孝謙上皇側の参謀として乱の鎮圧に活躍した。 → **孝謙上皇** と **称徳天皇** は同一人物

その後、称徳天皇のもとで真備は昇進を重ね、766 年にはついに右大臣にまで上った。



さらに **孝謙天皇** = **称徳天皇** より皇太子時代からの **個人的信任** を得ていたから。

以上の内容を、90 字でまとめればよい。